

平成 22 年 4 月 23 日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2007～2010

課題番号：19320051

研究課題名（和文） 語り手と女：ジェンダーを巡るイランの文学的言説の研究

研究課題名（英文） Women and Narration: Gendered Narratives in Oral and Written Persian Literature

研究代表者

藤元 優子 (FUJIMOTO YUKO)

大阪大学・世界言語研究センター・教授

研究者番号：40152590

研究代表者の専門分野：イラン現代文学

科研費の分科・細目：文学・各国文学・文学論

キーワード：外国文学・イラン・ジェンダー・国際研究者交流・イラン；イギリス；アメリカ；ドイツ

1. 研究計画の概要

本研究は、イランにおける文学的言説を、ジェンダーを分析的に用いて総合的に検証することで、文化的周縁に置かれ、常に歪められてきたイラン女性の実像を明らかにし、ひいてはイスラーム世界に対する認識の刷新を図ろうとする。「語り」をキーワードに、古典文学から宗教儀礼やディアスポラ文学に見られる女性のナラティヴまで、時代やジャンルの異なる研究者が女性という共通の研究対象について複数の視点から共同研究を行い、中世以降現代に至るジェンダーを巡る文学的諸言説を俯瞰し、相関的、有機的に捉えることで、イランにおけるジェンダーの構造とセクシュアリティのあり方を解明する。

2. 研究の進捗状況

初年度の平成 19 年 6 月に準備会合を開いて研究目的、研究計画等につき関係者が確認した。それに基づき、以下のような活動を行ってきた。

(1)調査・資料収集

研究代表者、連携研究者、および研究協力者の延べ 10 名が、イランおよびドイツに出張し、各自のテーマに関する現地調査や資料収集および研究打ち合わせを行った。そのうち現地調査としては、イラン北部での女性の宗教儀礼におけるナラティヴに関する調査、女性による労働歌と婚礼歌謡の収集を行った。この成果の一部は、下記の研究中間報告会で発表された。

(2)研究会・講演会の実施

平成 19 年度にはゾフレ・ロルザンギャネ氏による女性の宗教儀礼ソフレに関する講演会、平成 20 年度には重要な女性詩人スィーミーン・ベヘバハーニー氏ほか 1 名を招聘しての講演会と研究の中間報告会を開いた。平成 21 年度には 6 月と 11 月に気鋭の研究者ホマー・カートゥズィアーン氏とタキー・プールナムダーリヤーン氏、および著名な女性作家シャハルヌーシュ・パールスィープール氏を招聘して、古典および現代文学における女性に関する講演会を開催した。各講演会では活発な質疑応答が行われ、出席者の大きな刺激となった。

(3)個人研究の進行と研究協力

研究参加者は、平成 22 年 11 月に開催予定の国際ワークショップでの発表に向け、各々の研究を進めている。また、現代文学分野では、複数の研究者が協力して、文芸誌『すばる』での「イラン女性文学特集」を実現した。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

(1)調査・資料収集

毎年、イランを中心に現地調査や資料収集に出かけ、イラン本国の研究者にも驚かれるような画像および音声を含む資料を収集できた。

(2)研究会・講演会

当初の計画(年 1 回)以上の回数で著名な研究者・文学者を招聘しての講演会および研究

会を開催し、活発な討論を行うことができた。

(3)個人研究の進行と研究協力

個人研究の遂行については、連携研究者1名と研究協力者1名が、本務校で要職に就いたり、大学院を休学したため、本研究への参加継続が事実上困難になっている。イラン文学研究者の数が寡少な中、広範な文学的言説を取り扱う本研究にとっては、痛手と言わざるを得ない。しかし、それ以外の連携研究者および研究協力者は、現在個人研究の纏めを行うべく努力しており、ジャンルによる密度の濃淡はあれ、研究協力によって一定の成果を挙げられている。上述した『すばる』での「イラン女性文学特集」が、その好例である。

4. 今後の研究の推進方策

(1)国際ワークショップの開催

平成22年11月に2日間にわたり国際ワークショップを開催する。本研究に参加する全研究者に加え、アメリカ、ドイツ、スイス、イラン等から4,5名の研究者を招いて発表と討論を行う予定である。研究代表者、連携研究者および研究協力者は、このワークショップに向け研究をまとめることとなるので、これを4年間の本研究の総まとめとしたい。

(2)イラン等における資料収集

これまでの現地調査や資料収集を補足するため、海外で必要な資料収集を行う。

(3)データ化作業

口承文芸および女性の宗教儀礼におけるナラティブに関する資料をデータ化する。具体的には、音声資料の文字起こしと画像資料の整理を行う。

(4)研究成果の発表

研究成果を纏め、平成23年度以降の出版を目指す。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

①中村菜穂、暗闇からの飛翔—フォルグ・ファッロフザード(1935-1967)における詩的現代性をめぐる試論、イラン研究、第5号、210-233、2009、査読有

②藤元優子、アボルファズルのソフレ：語りの記録、イラン研究、第4号、179-206、2008、査読有

③藤元優子・石井啓一郎・前田君江・鈴木珠里、特集 イラン女性文学、すばる、第30巻、208-252、2008、査読無

〔学会発表〕(計1件)

①タンハー、ザフラー ターヘリー、A Broader Space for the Feminine in Rumi's Teaching、International Conference on Islam and the Human Being、2009年5月29日、韓国外国語大学(韓国・ソウル市)

〔図書〕(計1件)

①山中由里子 今関俊子編『涙の文化学』、104-115、青簡社、2009